

「宇治市自殺対策計画(初案)」に対して寄せられたご意見の内容とそれに対する本市の考え方

資料3-1

No	区分	ご意見の内容	ご意見に対する本市の考え方	修正等
1	数値について	日本で変死されている方は自殺者数に含まれないと聞いたことがあります。遺書がない等、断定が難しい場合は変死とされるそうです。この数が2万人を超え、自殺者数が、実は5万人を超えている(国単位)、宇治でも実際の自殺者数は多いのではと勘ぐりたくなります。国の統計方針を鵜呑みにするのではなく、市独自で精査していただきたい。	本計画では、厚生労働省が警察庁から提供を受けた自殺統計原票データに基づき集計を行った、自殺統計データを用いています。自殺統計は、捜査等により、自殺であると判明した時点で、自殺統計原票を作成し、計上しているもので、そのことを認識しておく必要があります。ただ、市では基本的にそれを使用するしか方法がなく、市独自で精査するという事は困難であると考えております。	修正なし
2	施策について	自殺者の内訳で、男性の比重が高く、彼らは仕事以外に社会と関わる接点が少なく、孤立するのではと感じます。年齢・性別に関わらず、参加できるサークル活動、無料施設があればと思います。日本、もしくは宇治には憩いの場が少ないと感じます。	自殺者における男性の比率が高いことは市としても認識しているところです。宇治市内においても多くのサークル活動やサロン活動等が行われておりますが、参加しやすい環境を整えることは、社会参加を促進するうえで非常に大事なことだと考えますので、ご意見を踏まえ、最終案に追記します。(最終案：p14)	修正あり
3	その他	閉塞感を作り出している国政に市政はどう向き合うか注視したいです。余暇、趣味、遊びの楽しみが増えれば自殺は減るでしょうが、今の日本、宇治には個人の充足感、幸福感を得るなど暗示されているようにしか感じません。	自殺対策は、過労や孤立、失業といった自殺の危機要因を減らしていくことに加え、QOL(生活の質)を包括的に向上させていくことが必要と考えております。自殺はその多くが追い込まれた末の死であり、その多くを防ぐことのできる社会的な問題であるという基本認識を共有しながら、基本理念である「みんなで支え合い誰も自殺に追い込まれることのないこころ通うまち宇治」の実現を目指し、市民の皆様とともに取り組みを進めていきたいと考えております。	修正なし